

週刊

教育資料

2014年11月10日号

No.1319

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION

<http://www.kyoiku-shiryo.co.jp>

>>> 好評連載



校長講話【災害について考える意識を育てる】小川深雪／東京都文京区立林町小学校校長

教育問題法律相談【いじめ防止義務とは?】角南和子／弁護士

実践! 校長塾【「熱中、笑進、健康」で】伊藤隆／東京都練馬区立中村小学校校長



▼資料【道徳に係る教育課程の改善等について(答申)】
○中央教育審議会

▼マイオピニオン【同窓会再考】
○合田隆史／尚絅学院大学学長

▼事務新時代【私にとっての「学びの場」】
○堀江美奈子／埼玉県所沢市立柳瀬中学校事務主任

▼潮流【国連とともにニームの木の普及を支援】
○稻葉真澄／NPO法人日本ニーム協会会長

稻葉真澄

いなば・さねすみ ◎1947年生まれ。ラオス人民民主共和国でニームの木と初めて出会い、2001年にNPO法人日本ニーム協会を設立。2004年から国連の工業開発機関(UNIDO)支援のもと、インドで学校建設・井戸掘り・灌漑あり・植林プロジェクトをスタート。2006年、カンボジアに日本ニーム協会の支部を設立。国際教育支援ボランティア組織「サバジャバンクラブ」代表。著書に『ニームは地球を救う』(プロスパー企画)。



稻葉眞澄氏に聞く（上）

NPO法人日本ニーム協会会長

潮流 ◆ 稲葉眞澄氏

潮流

国連とともに ニームの木の普及を支援

インド・ミャンマーが原産のニームの木。その害虫忌避作用を農業関係者が注目し、国連とともに普及支援に取り組んできた。最近は、健康面での薬効も注目されている。

世界中の農業関係者が注目
—NPO法人日本ニーム協会の目的や活動内容について教えてください。

インドをはじめ、東南アジアに広く自生している常緑樹である「ニーム」（英語名NEEM）の木は、害虫忌避作用が世界中の農業関係者から注目されています。私たちはそのニームの安全で効果的な防虫・害虫駆除効果を広く日本の関係機関に紹介し、活用をサポートすることで、人々の健康と健全な社会環境づくりを目的に2001年に設立された特定非営利活動法人です。

ニームは防虫効果のほかに、私たち人間の健康に役立つさまざまな薬効も認められています。化学物質による環境汚染が人類の大きな問題になっていますが、20世紀最大の恩恵と言われるニームの木は、私たちの健康と自然環境の保全に欠かせない植物です。

本協会の具体的な活動としては、ニームの普及や啓発に関する講演会、化学薬品に代わるものとしてのニームの使用助言や支援協力、ニームの調査研究、生産農家や消費者などのネットワークの構築、ニームを使った農法をインドやカンボジア、フィリピンで実施する国際協力、ニーム関連商品

の紹介などを行っています。

——ニームの木について、もう少し詳しく述べてください。

ニームの木は広く東南アジアから中近東に自生しており、特にインドでは街路樹としてどこでも見られます。樹皮や種子、実や葉などすべてに薬効があるとされて、「アーユルヴェーダ」（インドの伝承医学）には欠かせない「神秘の薬」、基本的なハーブとして古くから珍重されてきました。

このニームの樹木に含まれる「アザデイラクチン」という成分が、害虫の卵のふ化を妨げ、成虫の食欲を減退させ、変態を防いだり忌避効果があるなど、害虫駆除に優れた効果を発揮します。種子から抽出されるニームオイルは、ハダニ、ナメクジ、ゴキブリ駆除などに効果があります。また、農作物に繰り返し害虫忌避剤として使用しても、人間など動物にはほとんど無害で自然環境のサイクルに影響を与えるません。不思議ですが、同じ虫でもミツバチやミミズには無害で、アメリカやヨーロッパでは早くから認可されて有機農法などで活用されています。

種子や樹皮を用いて肌の健康維持や美容の分野での効果が期待され研究が進められています。すでに日本でも大手の化粧品会社が使っています。日本ではデング熱験ががありました。それにも薬効がというデータがつい最近、出ました。現在は、がんの予防や治療への活用なども始まっています。

——亜熱帯地域の植物ですが、日本では栽培できないのでしょうか。

寒さに弱いという面があり、外で栽培すると霜で枯れます。植生では23度以上で育つ植物です。23度以下では成長が止まり、10度以下では葉が落ちたりします。ただ、室内で栽培するなどすれば、2メートルくらいまでは成長させることができます。温室などがあれば、まったく問題はありません。

インドやミャンマーが原産地ですが、インドでは産湯にニームの葉を使いますし、結婚式ではニームの花をよく使います。

日本は今、単位面積当たりで最も多くの農業を使っている国ですが、脱農業の方向に向かうためには、ニームのような自然のものを活用せざるを得ません。今、TPPの議論が進められていますが、農産物を世界に輸出していくためには農薬を減らす努力が不可欠になっています。

——国連の「UNIDO」と連携した活動も

「UNIDO」（国連工業開発機関）は国連の専門機関の一つで、開発途上国の経済発展と工業基盤の整備の支援を目的とした機関ですが、そこと連携して、ニームの工業活用の技術移転などの手伝いもしています。特に、原産地でもあるミャンマーでは、国内を3日間車で走っている間、道路の両脇にずっとニームの木がありました。私もミャンマーの政府の招きで現地に行きましたが、ドイツはすでに三つの工場を建てて、ニームの種の加工や苗を育てる技術支援をしていました。日本もこうした分野で技術支援をして、共に互恵性のある関係を早急に構築すべきと感じました。

——稻葉会長は、開発途上国の学校造りなどのボランティア活動も早くから取り組んできました。

私は、この協会とは別に、学校建設や戸掘り、ため池造り、植林などの活動をしてきました。国際教育支援ボランティア組織である「サバジャバンクラブ」の代表もしています。私は先日、ラオスに行って、建設した学校の引き渡しに立ち合ったニーム

の栽培技術支援をしてきました。そのとき、日本から不登校の生徒と一緒に行き、現地の子供たちとも交流しました。日本では「学校に行けるのに、行かない」のですが、現地では「学校に行きたいのに、行けない」という子供が少なくありません。現地の家庭にホームステイしてみると、日本の生徒は「今まで自分がどれだけ甘えていたか痛感させられた」と言います。

——学校造りなど、教育の大切さについては、どうお考えでしょうか。

世界では、開発途上国も先進国といわれる国でも、等しく教育に入れています。アメリカでは、当時のクリントン大統領が、「双子の赤字」と言われた財政危機の時でも教育予算だけは増やしました。「この国の底力はすごいな」と感じました。教育は、すぐに結果を求めるのではなく、10年後、100年後の社会を考えるという姿勢が大切です。

私は、今の教育に足りないものは三つあると考えています。それは「宗教心」と「哲学」と「歴史」です。「宗教心」というのは特定の宗教の考え方ではなくて、かけがえのない命を大切にするという心を教えることです。「哲学」とは人間とはどういう存在かを考え、その基本に家庭では親、学

校では教師、社会では上司や先輩などへの「慕古心」（慕うきもち）があることを理解すること。そして戦後すぐ、敗戦から日本が独立するまでの6年半近い期間に、日本がどういう国際的な支援を受けて立ち直つていったかを教え、戦争や平和について深く考える教育をすることです。

いちばん貧しい地域に出かける

——国際ボランティアとして学校造りなども含めて活動をするために、いろいろな国に行かれたようですね。

私は、その国の一一番貧しい地域を訪問するようにしています。そこは同時に、その国で一番危険な地域でもあります。基本的に電気や水道のないところですが、そういう困難な地域にこそ、学校を造ろうと活動してきました。東南アジア、インド、他にも行きまし。そして、アフリカのいろいろな国に行く準備をしています。インドでは、ネバールに近いカースト制度の枠外にあるような貧しい人々の地域に学校を造ろうと活動しました。家畜や人間の糞まで乾かして燃料にしていましたが、その糞を固めた手でお茶を持ってきました。そのお茶を飲めば病気になりそうでした。そのお茶

ませんので、思い切って飲みましたが、案の定、その日から高熱を発してしまいました。日本から連れて行った大学生は赤痢にかかってしまいました。後で聞いてみると、コレラや赤痢がいつもその地域が発生源となっていたようです。その地域は、飢餓が悟りを開いた場所に近く、「こんな苛酷な場所で悟りを開いたのか」と思いました。

そこで、井戸を掘り、ため池を造り、学校を建設しました。同時に、現地の人たちが収入を得るために仕事場も造ろうとしています。

——現地では井戸造りや仕事場造りもされたようですが、その結果はどうでしたか。

井戸は80メートルくらい掘らないと、病原菌が減りません。きれいな水が得られることで、まず病気が減りました。学校づくりも、作った外国人の名前をプレートにはつたりすると、自分達の学校という意識がなかなか持てません。私はそのよう表示はしないで、自分たちの学校だと現地の人たちが大切に扱ってくれるような学校にしたいと思っています。その学校で学んだ子供が教員になって活躍しているところもありました。そういう姿をみると、とても嬉しいですね。

週刊

教育資料

2014年11月17日号

No.1320

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION

<http://www.kyoiku-shiryo.co.jp>

>>> 好評連載



校長講話【続々・生徒を讃める】岩瀬正司／(公財)全国修学旅行研究協会理事長

教育問題法律相談【学校給食費の未納対策】澤田稔／弁護士

特別企画【専門高校の学びを発信—さんフェア宮城2014】



○伊藤隆／東京都練馬区立中村小学校校長

- ▼**変わる教育委員会**【そして、勇気を育てる「学んだ」とが「生きる力」になるために】
- ▼**マイオピニオン**【戦闘員希望の北大生に推論や想像する力は育っていたか】
- ▼**実践！校長塾**【「熱中、笑進、健康」で】

○中央教育審議会 高大接続特別部会
○品川裕香／教育ジャーナリスト
○宮崎活志／東京都武藏野市教育委員会教育長
○伊藤隆／東京都練馬区立中村小学校校長

伊藤隆

いとう・たかし◎昭和30年生まれ。東京学芸大学卒。東京学芸大学附属大泉小学校で体育担当教諭として16年間勤務。その間、南米チリのサンチャゴ日本人学校の教諭を経験。その後、台東区立黒門小・岩井学園(健康学園)、同浅草小学校で教頭・副校長。平成20年度から練馬区立大泉第三小学校校長、同23年度から現職。

潮流

NPO法人日本ニーム協会会長

潮流 ◆ 堀子根野誠亮

稻葉眞澄

氏に聞く(下)

子供に慕われる大人に

ニームの木が取り扱った途上国の

子供たちへの教育支援活動。

教育で大切なのは信頼する心であり、

大人は慕われる存在に、と期待する。

子供が産まれたら木を植える

——ニームの木は原産地のインドでは昔から活用されてきたようですね。

——インドでは、子供が生まれると、ニームの木に産湯に浸けます。また亡くなるとニームの木に湯薬に浸けて、最後の時はニームの木の下でお別れすると、生から死までニームの木と一緒にすることで「聖なる木」「神の木」と呼ばれています。また「村の薬局」とも呼ばれて、子供が産まれたらニームの木を植える風習があります。

——日本ニーム協会では、ニームの成分

を活用した製品を開発されていますね。

インドなどではニームの木の枝を切って端を噛んで歯ブラシ代わりに使っている風景をよく見ます。ニームの実の油から石けんができますし、歯磨き粉などに活用することもできます。これまで、サブリメントや足裏シートなども開発してきました。また、ニームに含まれる成分をプラスチックや和紙と合成した抗菌グッズも考えています。

——そもそもニームの木との出会いはどうお考えですか。

有機農法の切り札としてニームを活用する方法はすでに実践されています。ブルジルで成功した日系人の方で、ニームの木に胡椒のツルを巻き付けて有機の胡椒栽培で成功している例があります。

今、世界は温暖化の時代に向かっており、日本もこれから徐々に亜熱帯化していくと

をしていました。戦災孤児が非常に多く、プラスチック爆弾などで手足を失った子供もとても多く、学校を建ても貧しきて通学ができないという状況でした。そこで、ラオスの人々がまず働ける環境を作ることが大事と考えました。ラオスでは貧しいために農薬をあまり使えないのですが、桑の葉がとても元気に育っていたので現地の人間に聞いたところ、虫が寄つてこない木を植えているということでした。それがニームの木でした。日本に戻って研究をしてみると、国連の報告書の中にも「ニームの木は20世紀最大の贈り物」という表現があることを知りました。日本ではほとんど知られていなかつたニームの木ですが、国際ボランティアの活動を通して見つけたものでしたので、世のために人のために使わないと意味がないと考えました。

——とにかく多用途に活用できるニームの木について、今後の活用や普及についてどうお考えですか。

有機農法の切り札としてニームを活用する方法はすでに実践されています。ブルジルで成功した日系人の方で、ニームの木に胡椒のツルを巻き付けて有機の胡椒栽培で成功している例があります。

今、世界は温暖化の時代に向かっており、日本もこれから徐々に亜熱帯化していくと



NPO法人日本ニーム協会会長

稻葉眞澄

いなば・さねすみ◎1947年生まれ。ラオス人民民主共和国にてニームの木と初めて出会い、2001年にNPO法人「日本ニーム協会」を設立。2004年から国連の工業開発機関(UNIDO)支援の下、インドで学校建設・井戸掘り・灌漑池造り・植林プロジェクトをスタート。2006年、カンボジアに日本ニーム協会の支部を設立。国際教育支援ボランティア組織「サバジャパンクラブ」代表。著書に『ニームは地球を救う』(プロスパー企画)。

考えています。それに伴いシマ蚊も増えると思います。先日の Dengue熱験ぎを踏まると、マラリアなどの予防として活用する方法もあります。実は、抗生物質は細菌に効きますが、ニームの成分はウイルスにも対応できるという特徴があるので、例えば鯉ヘルベスや鳥インフルエンザへの対応も可能です。アトピー対策などでの研究もすでに始まっています。その後、注目度は上がっています。

途上国への最大の贈り物

—日本国内だけでなく、世界に目を向

けると、環境問題への対応や開発途上の国の経済支援にも役立ちそうですね。

アフリカは一部の国を除いて、特に西アフリカの砂漠地帯では有力な産物があります。しかし、ニームの木は砂漠地帯や熱帯雨林でも成長するので、砂漠の緑化などの活用も期待されます。CO₂の排出吸引など、これからの環境問題を考えると、途上国への最大の贈り物になるのでは、と思います。前回(11月10日付1319号)も述べましたように、国連が認知し、推奨している植物ですので、ストックホルム条約(2001年)でも、DDTやPCBなどを

—ニームの木を木材資源として活用することも可能でしょうか。

原産国のインドやミャンマーでは家屋や牛舎などに使われています。ニームは非常に密度が高くて堅い木ですので、日本炭焼き協会の協力でフィリピンのミンダナオで、ニーム炭の開発を進めたこともあります。

木材として日本に持ってくるというより、原産国周辺の途上国の産業開発、雇用の促進、環境問題を第一に考えた経済支援が必要と考えています。

将来的には、政府のODAに入れてもらいたいと願っています。現在、ニームの木を通じて世界の27カ国と連携していますが、将来は赤道直下の100カ国以上の国でニームの木を育てて、環境問題の切り札にしていきたいと願っています。

—稻葉会長は、健康法としてニームの炭やお茶を飲んでいますね。

私自身は、健康法としてニームのお茶を

どの残留性有機汚染物質の廃止や排出の軽減を行っていくために、生物農薬としてニームの木が認められています。この条約には日本も批准しています。当時の国連のニーム責任者のモハメド・エイサー博士にもお会いしましたが、「ニームの普及は大切で、いいところに目を付けた」と励まされました。



街路樹として大きく成長した
ニームの木



ニームの実も葉も薬効成分が
注目されている

は、その子供の一生を左右するほどの重大事です。これは途上国に限らず、日本でも初等教育でどんな学びの体験をするかが、重要ではないでしょうか。日本の場合、学校教育に比べて社会教育といいますか、地域のおじさん、おばさんから教えられるという面が昔に比べて弱くなっていると感じます。

最後に学校の現場の先生にメッセージ

先生と生徒との間で一番大切なのは信頼関係だと思います。私自身の体験でも、自分が悪いと自覚しているときは、先生から体罰を受けても当然のことだと思っていました。もう一つは、前回も触れましたが「慕古心」（暮う気持ち）だと思います。

生徒から信頼され、慕われる先生であつてほしいと思います。しかし、そのことは

「生徒にこびる」ことではなく、毅然とした態度で教えるという姿勢が必要でしょう。

国際的なボランティア活動においても、互いに信頼できるか、信じ合えるか、分かち合えるか、愛し合えるかーの四つが大切です。このことは人間関係だけでなく、国家間の関係でも当てはまるのではと考えています。

そうですね。特に初等教育がとても大切です。貧しい状況にあって、最初に出会う

途上国の子供たちに働き学ぶ場を
——ニームの木の栽培はいろいろな活用
ができますが、子供たちにもできる活動があるのでしょうか。

私は静岡県の出身ですが、子供のころは、茶の実を一升瓶に一杯集めると5円で買つてくれました。そのことを思い出して、フリーピンやラオス、カンボジアなどで学校

造りに取り組んでいた時に、自生しているニームの木の実を子供たちに集めてもらい、学校の校長先生を通じて買い取って、ノートや鉛筆などの学用品をまかなつたり、ニームの木を育てる報酬をもらえるようしました。子供たちにとっては働く喜びが得られるとともに、学校に行けば学用品がもらえるので、それまで貧しくて学校に行けなかつた子供たちも学校に通うようになりました。

——途上国の子供たちにとつては、学校や学ぶ機会はとても大切ですね。

学校教育で、将来の大望を持てるかどうか